

令和8年度

事業計画書

学校法人 常葉大学

目 次

I. 令和8年度事業計画の概要	
1. はじめに	1
2. 重点事業計画	2
II. 令和8年度事業計画	
1. 法人本部	3
2. 大学・短大	4
3. 附属中学校・高等学校	5
4. 附属小学校・幼稚園	8
5. 付随事業	11

I. 令和8年度事業計画の概要

1. はじめに

理事長 木 宮 健 二

本法人は、令和8年度に創立80周年という大きな節目を迎えます。これまで本法人の教育研究活動の発展に多大なるお力添えを賜りました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。今後も先人が築き上げた建学の精神と理念を礎に、その歩みを継承しながら、未来を見据えた法人運営を着実に進めてまいります。

こうした節目の年を迎える一方で、社会全体の動向に目を向ければ、出生数の減少が続く中、私立学校を取り巻く経営環境は今後さらに厳しさを増すことが見込まれます。本法人では、このような状況を踏まえ、令和8年度から始まる第3期中期計画（令和8年度から令和12年度）を基軸に、教育環境の整備をはじめとして、下記のような事業計画に取り組み、未来志向の経営改革を進めてまいります。

まず、施設設備につきましては、令和10年4月の開設を目指し、常葉大学浜松キャンパスのJR浜松駅南口への移転事業を着実に進めます。交通至便で最新の設備を備えた新キャンパスは、県内進学を希望する高校生に快適で充実した学びの場を提供するとともに、近隣大学との連携を通じて教育力・研究力の向上にも寄与するものと確信しております。また、常葉大学静岡水落キャンパスにおいても、教育研究環境のさらなる充実のために、校舎増築工事の本年度中の竣工を予定しております。

次に、持続可能な法人運営を支えるため、本法人の設置する大学及び短期大学部並びに各学校の魅力ある教育を広く周知し、志願者および入学者の安定的な確保を目指します。さらに、適切な予算編成と効率的かつ効果的な予算執行による強固な財務基盤の確立、将来を見据えた組織力強化のための人材育成にも継続して取り組み、安定的かつ発展的な法人運営の体制を確立してまいります。

令和8年度は、これらの施策を着実に推進する重要な一年です。本事業計画に基づき、「地域と連携し、教育を通して地域創生に貢献する」という本法人の使命を果たして、引き続き皆様に選ばれる教育機関であり続けるため、教職員一同が一丸となって不断の改革を進めてまいります。皆様には、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2. 重点事業計画

本法人の重点事業計画は、私立学校ならびに本法人を取り巻く環境を踏まえ、各学校等における教育研究活動およびこれに付随する事業を推進する目的で策定したものです。令和8年度は、第3期中期計画（令和8年度～令和12年度）の初年度となります。今後5年間の計画達成に向け、本年度は次の5つの重点事業を確実に遂行して参ります。

（1）常葉大学浜松キャンパス移転及びキャンパス整備の推進<継続>

浜松キャンパスの新校舎建築事業について令和9年11月末竣工を目指して工事を進める。また、新キャンパスへの移転を円滑に実施するため、設置に必要な什器・備品の計画を立案するとともに、移設対象となる物品の整理・リスト化などの準備作業を進める。

（2）常葉大学静岡水落キャンパスの校舎増築工事及び設備整備の推進<新規>

令和8年5月静岡水落キャンパスの校舎増築工事竣工を目指すとともに、必要な教具・校具等の整備事業を進める。

（3）IRに基づく志願者動向分析と戦略的募集活動の推進<新規>

少子化や社会構造の変化を踏まえ、IRの視点から志願者動向を多角的・継続的に分析する。各校の入試・募集関連データを法人として一元的に管理・分析し、エビデンスに基づく戦略的な募集施策の立案・改善を推進することによって、志願者数及び入学者数の安定的な確保を図る。

（4）強固な財務基盤の確立<新規>

適切な予算策定及び予算統制を通じて効率的かつ効果的な予算執行を図るとともに、教育研究活動への十分な投資を確保しつつ、経費削減の推進と安全性を重視した資金運用を行って収支の改善と増収を図る。

（5）研修の実施による人材育成の推進<新規>

適材適所の人員配置による組織力の最大化を図るため、若手から中堅職員までを対象として経営的視点の醸成を目的とした研修を強化する。

II . 令和8年度事業計画

1. 法人本部

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子	令和8年度の事業計画		
法人本部	学校法人常葉大学は令和8年度に創立80周年を迎える。これを機に「より高きを目指して～Learning for Life～」の建学の精神に立ち返り、先行き不透明な未来社会を生き抜く力を備えて社会に貢献する人材を育成し、「地域と連携し、教育を通して地域創生に貢献する」という使命を果たすことを目標とする。その目標を達成するために、教職員の資質向上を図るとともに、教育改革の推進や入試改革などに積極的に取り組み、堅固な経営基盤に基づく、各校の特色を生かした良質な教育（保育）の提供を継続する。	1 教育研究活動の支援	1) 教育研究活動への支援	・主体的・対話的学び、探究学習、ICT活用など、各学校の学習者・学修者本位の教育に関する共通の視点を整理し、法人内で共有する。	
		2 地域貢献活動の支援	2) スケールメリットを生かした各校の連携活動への支援	・探究学習や接続教育支援プログラムの中高大連携の調整等を高大接続教育委員会を通じて支援する。	
			3) 研究成果の地域への還元への促進	・常葉大学および同短期大学部における産官学連携による共同研究体制の構築を促し、研究力強化を支援する。	
			1) 学校段階に応じた地域連携活動の支援	・各学校の地域連携活動を実施状況を把握するとともに、地元自治体や地域産業界のニーズを各学校に情報提供し、連携活動を支援する。	
		3 募集活動の支援	2 地域社会の課題解決への寄与	2) 地域社会の課題解決への寄与	・各校が進める教育研究や産官学連携による地域貢献活動を把握し、魅力的な取組は学校間で共有するとともに、法人としても積極的に発信して地域社会への認知向上につなげる。
				3) 同窓会等と連携した地域貢献の促進	・各学校と同窓会やPTAとが協働した地域貢献活動の推進のための情報提供や支援を行う。
				1) 法人内各校の定員確保に向けた取組の推進	・各学校の入試状況を一元的に管理し、そのデータを基に次年度の志願者数・入学者数の確保について各校と協議を行い、入学定員の充足を図る。
		4 財務・運営	人口減少が加速する時代にあっても、社会経済の変化を見据えた長期的な展望を持って、収益の安定化と適切な財源の配分を図り、強固な財政基盤に支えられた堅実な法人運営を行う。	2) 入試制度及び募集活動の点検	・各学校の入試制度・募集活動の実績データを一元管理する。 ・附属中高については、出願から合格発表までのデジタル化を推進する。
				3) 多様なデータを活用した入試広報の強化	・各学校の入試データ及び入学者アンケートの結果を集約・分析し、適宜、広報活動等に活用するように指示する。
				1) 強固な財政基盤の確立	・各所属への予算配当方法を見直し、適切な予算策定及び予算統制を通じて、効率的かつ効果的な予算執行を図る。 ・教育活動に対して十分な投資を確保しつつ、経費削減の推進及び安全性を重視した資金運用により、収支の改善と増収を図る。
				2) 良質な教育研究環境の維持	・浜松市中央区寺島町に移転する浜松キャンパスの新校舎建築事業について令和9年11月末竣工を目指して工事を進める。 ・令和8年5月静岡水落キャンパスの校舎増築工事竣工を目指すとともに、必要な施設設備の整備事業を進める。
				3) 業務の適正を確保する運営管理体制の確立	・内部統制システム整備の基本方針に定める管理体制の充実を目指すため、リスク管理を徹底することとし、法人全体の管理体制や法人本部と各学校との連絡体制の強化を図る。 ・コンプライアンスに関する管理体制を強化するため、関係規程を整備するとともに、公益通報制度の仕組みの充実を図る。
5) 組織力の最大化	4) 教職員の質の向上	・教育の質の向上と複雑多様化する学校業務への的確な対応を図るため、少数精鋭の専門家集団の組織づくりを目指す。 ・そのために、外部委託を中心としていた研修を本法人独自の研修として内製化する。			
	5) 組織力の最大化	・適材適所の人員配置による組織力の最大化を図るため、中高及び事務部門における各部署の適正人員計画を策定する。			

2. 大学・短大

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子	令和8年度の事業計画	
常葉大学・常葉大学短期大学部	建学の精神である「より高きを目指して～Learning for Life～」及び「地域と連携し、教育を通して地域創生に貢献する」という法人の使命の下、未来の国や地域に貢献できる人材を育成する。年間で2,000人規模の地域から必要とされる、産業人材やエッセンシャルワーカー等の私たちの暮らしに欠かせない人材を輩出する私立大学・短期大学として、地域社会の持続可能性を維持する役割を果たすことを目標とする。	<p>1 教育研究活動</p> <p>静岡県における高等教育の機会提供の一翼を担い続け、静岡県の各地域の産業特性に合致した産官学協働の教育研究を充実させる。また、地域社会の発展や活性化に貢献する人材の育成並びに研究活動の推進によって地域社会の持続可能性を維持する役割を担う。</p>	<p>1) 教育に関する計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学部・学科の教育目標や専門性、資格・免許取得の位置づけ等を踏まえ、地域社会・産業界と連携した教育内容の段階的な拡充に向けた調査・検討を行う。 多様な学生を受け入れる社会情勢を踏まえ、学生一人ひとりの意欲や学力に応じた教育について教職員が協働して検討する。
		<p>2 地域貢献活動</p> <p>地方創生につながる活動や情報の拠点として、多様な人々が集う開かれた大学・短期大学を目指す。また、地域連携・交流に関わる諸活動を積極的に行い、地方公共団体や企業と連携しながら地域の活性化を担う人材を育成することによって地域社会の持続可能性を維持する役割を担う。</p>	<p>2) 学生支援に関する計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ動機の醸成を目的として学生の地域連携活動や学部・学科を横断する自主活動の拡充を図る。 予測困難な時代における多様なキャリア支援の推進を目的として、学部・学科の教育目標ならびに地域の産業特性を活かした進路支援と高い内定率維持を実現する。
		<p>3 募集活動</p> <p>時代やニーズに即した募集活動の充実に努め、大学・短期大学進学に伴う若者の県外流出を抑制し、キャンパスの所在する静岡市及び浜松市という2つの政令指定都市を中心に地域の活性化を促す。地域のにぎわいを生み出すことによって地域社会の持続可能性を維持する役割を担う。</p>	<p>3) 研究推進に関する計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 企業との共同研究を推進する。 科学研究費をはじめ外部助成事業への申請率及び採択率向上を目指すし、より充実した支援と学内研修会の促進を図る。 研究力活性化のため、職員による分析、推進、管理、支援および利活用等に関する講座等の受講を推進する。
		<p>4 大学・短期大学運営</p> <p>認証評価の結果を踏まえ、学長のリーダーシップの下、常に教育研究活動等の質の向上・改善を推進していく。地域社会及びステークホルダー（大学・短期大学を取り巻く個人や関係する団体）からの信頼を得て、安定的な大学・短期大学の運営を行うことによって地域社会の持続可能性を維持する役割を担う。</p>	<p>1) 地域貢献と国際交流に関する計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生と教職員による正課内外の地域貢献活動がさらに本学の特色となるために段階的な戦略を立案し、各事業の連携や統合を図る。 産（官）学連携によるスタートアップ事業創出を目的とした実態調査を実施する。 学生の国際交流活動や異文化交流事業等の取り組みについて調査し、支援計画を策定する。
		<p>1) 入学者選抜と高大接続教育に関する計画</p>	<p>2) 同窓会との連携に関する計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会会員サイトの会員登録者数増に向けて同窓会事業の広報強化を支援する。 同窓生コミュニティの交流が学生のキャリア支援に進展するために、同窓会役員と同窓会事務局が連携し企画を立案する。 地域社会で活躍する30代卒業生のキャリア紹介とメッセージ集を作成する。
		<p>1) 業務運営に関する計画</p>	<p>2) 浜松キャンパスの移転に関する計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生募集の戦略立案においてデータの利活用を推進する。 学部と各センターの連携を基に、地域創生に関連した教育・研究成果の広報を充実させることで大学像の浸透を進め、学生募集に繋げる。 探究学習の支援など高大接続教育の充実と共に、育成型入試と連動した入学前教育の充実を本学の特色とするための検討と実践を推進する。 浜松駅前キャンパス新設を県外を含めた募集効果に繋げるための産官学連携ならびに募集活動を推進する。
		<p>1) 業務運営に関する計画</p>	<p>2) 浜松キャンパスの移転に関する計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャンパス及び部署を横断した学務システム運営企画協議会を設置し、システムの利活用を通じた業務の効率化を推進すると共に連携・交流を深める。 委員会活動の計画、報告、諮問・答申等の制度についてPDCAが確認できる方法に改善する。 実施から複数年経過しているプロジェクトについて自己点検・評価し、今後の方向性を検討する。
		<p>1) 業務運営に関する計画</p>	<p>2) 浜松キャンパスの移転に関する計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャンパス移転を学生募集や地域貢献活動の強化につなげる視点を学内に浸透させる。 浜松教学部会を中心とした新キャンパスへの移転準備を推進する。 水落教学部会を中心とした作業療法学科の移転準備を推進する。 草薙・瀬名教学部会を中心とした健康科学研究科臨床心理学専攻及び臨床心理教育実践センター移転準備を推進する。
		<p>1) 業務運営に関する計画</p>	<p>2) 浜松キャンパスの移転に関する計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャンパス移転を学生募集や地域貢献活動の強化につなげる視点を学内に浸透させる。 浜松教学部会を中心とした新キャンパスへの移転準備を推進する。 水落教学部会を中心とした作業療法学科の移転準備を推進する。 草薙・瀬名教学部会を中心とした健康科学研究科臨床心理学専攻及び臨床心理教育実践センター移転準備を推進する。
		<p>1) 業務運営に関する計画</p>	<p>2) 浜松キャンパスの移転に関する計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャンパス移転を学生募集や地域貢献活動の強化につなげる視点を学内に浸透させる。 浜松教学部会を中心とした新キャンパスへの移転準備を推進する。 水落教学部会を中心とした作業療法学科の移転準備を推進する。 草薙・瀬名教学部会を中心とした健康科学研究科臨床心理学専攻及び臨床心理教育実践センター移転準備を推進する。

3. 附属中学校・高等学校

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子	令和8年度の事業計画		
常葉中学校・高等学校	創立80年に及ぶ歴史を持つ本校は、創立当初の「美しい心情をもって人と接し、堅固な意志と健康な身体をもっていかなる苦難にも打ち克ち、より高きを目指して学び続ける人を育成する」という教育理念に立ち返り、「自ら目標を設定し、責任を持って行動する自律した生徒の育成」を目標とする。本校の使命である「社会のために働き、人のために役に立つ 豊かな人生を自らデザインし、力強く歩める生徒の育成」に取り組む。	1 教育研究活動 すべての教育活動において、生徒及び教職員が常に問題意識を持ち、主体的に活動できる安心安全な教育環境を作る。探究的な学びを通して、学力テストなどで測定できない人間力である「非認知能力」を高め失敗を恐れずに挑戦し続ける学校風土を作る。	1) 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒との双方向活用を工夫した電子黒板の使い方を推進する。 AIリテラシーについて学ぶ機会を作る。 GCP（不確実な時代に、自分と世界の幸せのために行動を起こせる大人になるためのグローバルコンピテンスプログラム）の導入を検討する。 	
			2) 常葉大学・常葉大学短期大学部との高大接続教育	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特色の1つである、全校生徒が受講する「連携講座」を企画運営の段階から高校と大学・短期大学部と協同して実施し、常葉大学や短期大学部への進学後もリーダー的存在となるような学ぶ意欲の高い生徒を育てる。 	
			3) 中高一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> 中学の探究学習「とこはの学びプロジェクト」での学びが、高校の「総合的な探究の時間」に生かされるように、中高合同の成果発表の場を設ける。 すべての部活動を中高合同で実施し、6年間を見据えた成長を促す。 中高合同の学校行事を通して、学校全体が「愛校心」であふれる学校風土を醸成する。 	
			4) 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度から開始する新たなカリキュラムや、2年次からの「フィールド別クラス（特進コース、看護コース（理系）、保育コース（文系））」の改革を推進する。 1年次から「附属高校入試制度」の理解を図り、合格の基礎資格である学力向上を図るとともに学習習慣を身に付けさせる。 多様化する進路指導に、複数教員がチームを組み、個別に対応する仕組みを作る。 	
			5) 生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 教員、生徒、保護者と指導の目的や意図を共有し、学びに集中できる環境を作る。 「交通反則通告制度」の自転車書切符導入に対し、安全な自転車通学ができるよう指導を徹底する。 全ての教育活動において、生徒自身が考え、主体的に活動できる場面を提供する。 	
			6) 教員の教育力強化	<ul style="list-style-type: none"> 学年・分掌・教科を超えたプロジェクトチームを6つ（文化祭運営・創立80周年運営・NIE及び朝読書推進・進路個別化体制・新1年体制・ICT活用）策定し、年間を通してトライ＆エラーで取り組む体制を作る。 校内外の研修に積極的に参加する。 スクールポリシーの最上位目的を理解し、業務の縮小や見直しができる業務を選定し、必要業務に集中できる環境を作る。 コンプライアンスの徹底を図る。 	
		2 地域貢献活動	創立80周年を迎え、一層、地域に愛され、社会に期待される学校を目指す。連携講座、探究活動、文化祭を始めとするさまざまな学校行事を地域社会に開き、地域の皆様と共に生徒の学びを深める機会とする。	1) 保護者・卒業生・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 「創立80周年式典」及び芸術祭を開催するにあたり卒業生とともにこれまでの歴史を振り返り、新たな歴史を築く契機とする。 立地の良さを生かした探究学習、主権者教育、連携講座実施やボランティア体験、常葉大学水落キャンパスとの同日文化祭の開催などの諸活動を通じて、地域の人たちや保護者、卒業生の支援を得て学びを深める機会を作る。
		3 募集活動	広報課を設置し、本校の特色ある学びを広く発信する。令和8年度から開始する新たなカリキュラムや進路別の教育内容を充実させ、募集活動につながる教育改革を進める。	1) 生徒募集	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度から開始する新たなカリキュラムや教育内容を生徒や保護者に広く知らせる。 常葉中高には「こんな魅力的な特色がある」というものを目に見える形で積み上げ、SNSや学校説明会を通じて広報する。 「生徒のためになり、募集につながることに積極的に関わっていく姿勢を持つ。 特に中学校募集の強化を図るために広報内容を見直す。
		4 学校運営	教職員がやりがいをもって働くことができるよう、人材活用を推進する。人口減少の現実と対峙しながら、健全な教育活動と堅実な財政管理を徹底する。	1) 組織の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度から新高校1年生を対象とした「チーム担任制」を導入し、生徒の主体性を伸ばし、教員の指導体制を工夫することで、教員一人ひとりが「中間管理職」の意識を持って学年全体を運営する。 令和10年度に全学年が「チーム担任制」となるため、各学年の特色を作りながら、生徒主体の学校を作り上げる基礎作りをする。

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子		令和8年度の事業計画	
橋 中 学 校 ・ 高 等 学 校	常葉大学附属の中学・高校として、大学とともに持続可能な地域社会の実現に寄与するために、地域で活躍する有為な人材を育成する。また教育活動を通し、次世代を担う生徒たちが心身ともに豊かに成長し、社会の一員として生涯にわたって充実した人生を送ることができるような「ウェルビーイング」(身体的・精神的・社会的に満たされた幸福な状態)の実現を目指す。そのために自分は社会や人のためになれるという「自己効力感」、困難な状況にも耐えしなやかに乗り越えていく「回復力」、他者の感情や考え方を理解し共感する「他者理解」を涵養する仕組みを構築する。	1 教 育 研 究 活 動	生徒一人ひとりの個性と可能性を伸ばす探究的学びを推進し、地域・大学・企業との連携による実践的教育を深化させる。また、データに基づく教育改善とICTの効果的活用を進め、社会に貢献できる自立した人材の育成を目指す。	1) 学習指導	・学力推移調査(中学)、スタディーサポート(高校)の結果を、各教科会議において共有・検証し、授業に反映する。 ・探究活動のアセスメント(評価教材)を活用し、効果を検証する仕組みを構築する。
				2) 常葉大学・常葉大学短期大学部との高大接続教育	・大学と一体となり、「高等教育(大学教育)の価値」を広める活動を模索する。 ・その一環として、地域貢献活動などにおいて互いの活動(イベント等)への相互参加を検討する。
				3) 中高一貫教育	・行事や課題解決型授業を通じリーダーシップ・フォローシップを涵養できるよう、取り組みのあり方を検討する。 ・中1～高1を対象とした生徒・保護者向け講座の開催を検討し、一貫教育の利点を生み出す。
				4) 進路指導	・「英数科の魅力」を明確にできるよう教育内容の抜本的見直しを検討し、他校との差別化を図る。 ・進路課・学年部が一体となり、進路選択につながる自己理解・進路研究の取り組みを構造化する。
				5) 生活指導	・いじめや心理的孤立の予防策として、言葉の伝え方や他者との相互理解を深める取り組みを検討し、実践する。 ・生徒課を中心として、生徒指導の目的・取り組みを再検証し、教育目的に沿った生徒指導のあり方を模索する。
				6) 教員の教育力強化	・ミドルリーダーを中心に、職員間の円滑なコミュニケーションを意識し、積極的な課題共有・問題解決を図る。 ・私学マネジメント協会など外部研修に積極的に参加し、課題意識の醸成や業務の対応力の向上を図る。
		2 地 域 貢 献 活 動	生徒自らが地域の課題を発見し、解決に向けて行動するための探究活動を推進する。学校独自のカリキュラムを通じて、地域に根差した学びと人づくりを実現し、地域社会に信頼される学校を目指す。	1) 保護者・卒業生・地域との連携	・SDGs探究やTPR(橋高校普通科における探究活動)を通じ、地元静岡の自治体・企業との連携に取り組む。 ・広報的価値も念頭に、「地域に開かれた学校」「学びの結節点(ハブ)としての学校」のあり方を、現状の取り組みや中高大連携も含め検討する。 ・PTA主催の保護者向け講座の開催をPTA役員会に依頼し、生徒に係る課題を保護者と共有し、また向き合い方を学ぶ。
		3 募 集 活 動	本校の教育理念と探究活動や地域連携、ICT教育などの特色ある学びについて、学校説明会やSNSを通じて効果的に発信することによって本校教育の特色及び魅力を伝える。日々の活動においては、生徒・保護者との信頼関係を大切にし、選ばれる学校づくりを進める。	1) 生徒募集	・公立中学生に対し、早期から本校を進学先の選択肢として認識してもらうよう関心を喚起するため、中1～2年生を対象とした説明会の開催や、近隣中学校における出張説明会を積極的に実施する。 ・各種研修(私学マネジメント協会など)を通じて、生徒募集のトレンドをおさえ、活動につなげる。 ・SNS等を利用した受験生に対するアンケート調査の実施を模索し、募集活動の定量的・効果的な検証につなげる。 ・説明会以外での公立小・中学生との接点構築を模索する(2-(1)-(2)と関連)。 ・近隣公立中学校を「地域重点校」とし、校長訪問などの実施を通じて連携の強化を図る。
		4 学 校 運 営	教職員が協働しながら持続可能な学校づくりを進めるとともに、人事における適材適所を意識し、チーム力を高めながら教育活動の質を向上させる。また、今後の人口減少を意識した学校運営の方向性を示す。	1) 組織の活性化	・各教員が橋中高の教育のグランドデザインを十分に理解し、教育活動(行事・企画など)への紐づけの強化を図る。 ・既存の学校行事や業務を見直して再構築を行うために、業務や行事における課題の共有や現在行っている業務の見直しを行う。 ・課長や主任の業務を明確化するために、業務分担の点検及び見直しを検討する。 ・教職員のキャリア目標を確認し、各自のキャリア観を校内人事に生かし、「働きがい」につなげる。

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子	令和8年度の事業計画
菊川中学校・高等学校	<p>中学からの6年間または高校の3年間を見通した教育計画のもと、「一人ひとりが光り輝く」教育の実現を目標としている。その目標を達成するために、生徒一人ひとりが社会の一員であることを自覚できる教育を目指し、学業と部活動の両立・文武両道の実践を通して生徒が抱えている夢や進路を叶える教育を行う。また、地域貢献を通じて地域に愛される学校を目指すとともに、小笠地区の私学の中で地域の子どもたちや保護者にとって真に魅力ある学校としての確固たる地位を築く。</p>	<p>1 教育研究活動</p> <p>新しい学力観、現代社会に求められる人材像を念頭に置いた教育を推進する。学習指導はもちろん、教職員の考え方や姿勢の変化が求められるため、研修機会を作ると同時に教職員自身も進んで自己研鑽に努める環境を作る。また浜松キャンパス移転を契機に常葉大学との「中高大連携」をさらに強化していく。</p>	<p>1) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業を増やし、講義形式だけでなくグループワークなどを行い、生徒同士が学び合う授業を積極的に展開する。 授業方法に特化した研修や事例研究を行う。
			<p>2) 常葉大学・常葉大学短期大学部との高大接続教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 常葉大学及び同短期大学部への進学率の向上に努める。 受験生を対象にした常葉大学及び同短期大学部の広報を強化する。また、高大連携講座や「とこフェス」などの本校生徒と常葉大学及び同短期大学部との交流会を実施する。
			<p>3) 中高一貫教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 中高大連携活動といった本校独自の中高6カ年で学ぶ効果や強みを十分に生かし、各生徒の進路実現に向けた指導を行う。 中学生の生徒情報や活動情報を全教職員で共有し、高校での指導に反映させる。
			<p>4) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 国立大学や有名私立大学を目指す生徒、常葉大学・常葉大学短期大学部を目指す生徒など、それぞれの生徒に最適な情報を提供する機会（進路説明会など）を設ける。 令和7年度よりも多数の国立大学への現役合格を目指す。
			<p>5) 生活指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動や本校が企画するボランティア活動、体育祭などの学校行事では、可能な限り生徒の自主性を尊重し、目標達成の喜びを味わえるような計画を立てる。
			<p>6) 教員の教育力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 私学協会や県総合教育センターで行われる研修に積極的に参加し自己研鑽を進める。 授業アンケートの定期実施によって授業改善を行う。 校内研修を定期的に行い、本校が直面している課題の解決や組織の活性化に努める。
		<p>2 地域貢献活動</p> <p>普通科及び中学校の探究学習「TKC (tokoha kikugawa creative)」、美術・デザイン科の「みらい学」を中心に、地域清掃や福祉事業を行っている生徒会活動、部活動単位で行っているイベント参加をからめ地域交流や地域貢献を行う。PTA活動に関しては時代に即した活動に変えていく。</p>	<p>1) 保護者・卒業生・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通科及び中学校の探究学習「TKC (tokoha kikugawa creative)」、美術・デザイン科の「みらい学」を中心に、地域清掃や福祉事業を行っている生徒会活動、部活動単位で行っているイベント参加をからめ地域交流や地域貢献を行う。 PTA総会の簡素化（書面決済、各種紙媒体のデジタル化など）や学校と保護者の双方に利点のある活動を模索し、保護者との新たな連携を進める。 卒業生に対してホームページを通じて本校の現状を発信して連携を深める。具体的には、各方面で活躍する卒業生の紹介やかつての恩師の現況などを掲載する企画を検討する。 地域連携においては、探究活動や生徒会、部活動単位で推進する。
		<p>3 募集活動</p> <p>少子化や社会構造の変化を着実に捉えて、入試制度を含め、募集活動の点検及び改善を推進する。広報課の充実を図り、SNSでの情報発信や学校案内やホームページを改編するとともに、募集イベントも回数や内容を吟味する。また保護者や卒業生の口コミが大きな影響を持つことから、日々の指導を徹底する。</p>	<p>1) 生徒募集</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子化や社会構造の変化を着実に捉えて、入試制度を含め、募集活動の点検及び改善を推進する。 広報課の充実を図り、SNSでの情報発信や学校案内やホームページを改編するとともに、募集イベントも回数や内容を吟味する。 保護者や卒業生の口コミが大きな影響を持つことから、在校生に対する日々の学習指導や生活指導を徹底し、学校生活の満足度を高めるようにする。 募集会議の定期開催によって、募集活動に関して常に刷新を図る。管理職に加え中堅教員や若手教員も募集事業の企画に加えることによって組織の活性化を図る。 定量的な根拠に基づき本校の強みを分析して、それを生かす学校づくり、広報活動を行う。
		<p>4 学校運営</p> <p>少子化であっても現在の入学者数を維持し、安定した学校運営に努める。社会の変化や物価高騰から適切な財源の分配を検討する。また、働き方改革に伴う業務のあり方も都度検証が必要であることから、既得権や前例踏襲ではなく、将来の学校を見越した持続可能な運営のための諸規定の整備を行っていく。</p>	<p>1) 組織の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営の指針となる菊川中高のグランドデザイン（スクールポリシー）の改訂を行い、これを日頃から意識できるような工夫（校内掲示、HP掲載）を行う。 教職員が心身の健康を保ち、業務を通じて協働性を高めることによって、より良い組織とする。衛生委員会の定期開催や管理職による教員との定期面談を実施し、個々の業務内容を適切に把握する。 業務の属人化を避け、業務遂行のマニュアル化や校務分掌や所属の非固定化に留意した人事配置を行う。

4. 附属小学校・幼稚園

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子	令和8年度の事業計画	
橋 小 学 校	本校は令和10年度に創立50周年を迎える。法人の建学の精神「より高きを目指して～Learning for Life～」と本校創立以来の伝統である「三方よし」（自分よし・相手よし・みんなよし）の信条を教育の基軸とし、どんなに時代が変化しても自らの力で未来を切り拓くことのできる「生きる力」を育むことを目標とする。学習指導要領の趣旨を踏まえ、教育学部附属小学校として教育研究・授業改善の先駆的な役割を果たすために教育課程を組織的かつ計画的に編成し、実施状況を点検評価し、教育活動の質の向上を図っていく。	1 本校の伝統と文化を継承しつつ、常に児童の未来を見据えた上で、系列のこども園、中学校、高校、大学と連携を図りながら、特色あふれる先進的な教育を推進する。	1) 生きる力を身につけた児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・本校創立以来継承している「三方よし」の信条を基軸に、知徳体のバランスのとれた確かな力を育む。 ・次期学習指導要領の基本的な考え方を研究し、先進的な授業改善に取り組む。 ・失敗や困難を自らの力で乗り越えるたくましさや保護者と課題共有を図りながら育む。
			2) 大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を国・社・算・理・生活科の教科別とし、教育学部の各教科担当教員との共同研究によって授業の質の向上を図る。 ・教育実習、スクールサポートスタッフを始め、大学の有している多様な知見や資源を積極的に活用する。
			3) 小中一貫教育の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで実践してきた系列校ならではの特色ある小中交流プログラムをさらに充実させる。 ・小中教員による情報交換の場を設け、中学生の学びの成果を本校で生かせる新たなプログラムを開発・実施する。
			4) 幼小の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・系列2園と本校低学年児童との交流会を実施する。 ・系列2園と本校教員との幼小連携教育の研修が定着し成果をあげているので引き続き研修交流を活性化させる。 ・募集活動の一環である未就学児を対象とした「小学校で遊ぼう」を開催し、園児が本校への親しみをもてる機会とする。
			5) 教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・次期学習指導要領の理解を深めるために、大学教員との情報交換や各種研究会参加、先進校視察等を積極的に行い、そこで得た情報を研修報告として教員間で共有する。 ・将来構想委員会を活用し、「変える・変わる」の学校改善の具体化を図る。
		2 保護者と教職員が本校児童のよさと課題を共有するとともに、社会に開かれた教育を実現するために、地域の方々の支援やさまざまな物的資源を積極的に活用し、児童に地域社会の重要性を感じさせる。	1) 保護者・卒業生・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材の教材化、ゲストティーチャーの招聘、民間企業との連携等、地域の人的・物的資源を生かした豊かな学びの実践を積極的に推進する。 ・児童が未来を切り拓くために必要な資質・能力について、教職員と保護者が学ぶための「共に学ぼう」研修会を継続実施する。 ・卒業生が集うための「ホームカミングデー」の検討を始める。
		3 本校教育への信頼と期待とは、質の高い授業と知徳体のバランスのとれた確かな児童の成長があってこそである。そのことを念頭に置いた広報と募集活動を積極的に行い定員充足を目指す。	1) 児童募集	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラ学習、少人数指導を始めとする本校教育の特色と強みを効果的に広報する方策等、時代に即した戦略的な募集活動を展開する。 ・放課後児童クラブの内容を充実させ 多様な学びの機会を提供できるクラブとして令和9年度にスタートさせるための準備をする。
		4 教職員が自ら学び、創造的な教育実践に挑戦できる研修体制を構築する。また、働き方改革を進め、ワークライフバランスを図りながら意欲を高める組織・運営の改善に取り組む。	1) 組織の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に積極的に取り組み、改善すべきことは即座に変えるスピード感を重視する。 ・教育課程と校内分掌組織の見直しと改善を行って、教職員のゆとりを生み出し、主体的に自己研鑽ができる組織づくりを進める。

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子	令和8年度の事業計画	
と こ は 幼 稚 園	「健康で明るい子」「適応力・協調性、思いやりのある子」「創造力豊かで意欲的な子」の育成に努め、幼保連携型認定こども園の機能を十分生かした園運営を実施する。	1 教育研究活動 園児一人ひとりが豊かな体験を通じて、感じたり、考えたり、工夫したりすることによって、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力の基礎」「学びに向かう力、人間性」が育まれるような教育・保育の充実に努める。	1) 子どもの健康・安全の確保	・園庭の一角に芝生を植え、園児が走ったり、転がったりする体験を通じて安心して心身の発達を助長できる環境を確保する。
			2) 充実した保育・教育活動の実施	・園庭に植えている木々の実を季節ごとに味わったり、遊びに活用したりすることによって、園児が五感を使い、自ら感じたり考えたりする機会を設ける。
			3) 園行事の柔軟な実施	・園児が主体的に生き生きと取り組む行事の開催を心掛け、保護者も参加しやすい状況を作るよう考慮する。 ・保護者が我が子の成長を実感できる園行事を企画する。
			4) 常葉大学・常葉大学短期大学部との連携	・附属園として、大学や短期大学部との教育研究連携を推進する。 ・実習協力を基盤に教育実践の交流や保育の質向上、人材育成を協働する。
			5) 橋小学校との連携	・幼小の円滑な接続を推進するための交流活動を継続的に実施する。
			6) 職員及び職員組織の力量の向上	・職員一人ひとりが研修に参加することによって視野を広げ、課題を強みに代えられるよう、学びの時間を確保する。 ・研修等で学んだ内容を職員全体で共有し、幼稚園全体の保育の質向上を目指す。
		2 地域貢献活動 近隣地域に積極的に関わり、住民の子育て支援も含めて地域貢献につながる活動を目指す。	1) 地域との交流	・保育活動において、近隣の田畑や店舗を訪れたり、地域で大切にされ続けている伝統文化に触れるなど、近隣住民との関わりを活性化させる。 ・地域社会との交流を通じて、園児自身が地域の中で大切にされていることや地域の力になっていることを実感できるよう促す。
		3 募集活動 少子化による乳幼児人口の減少が進む中、保護者のニーズを適切に把握し、それを募集活動につなげる。また、SNSを有効活用し、幼稚園の魅力が伝わる広報を目指す。	1) 園児募集	・ホームページやSNSに園児が生き生きと活動している様子を掲載し、本園の魅力を発信する。 ・未就園児親子の遊びの会において、保護者が直接保育に触れる機会を設け、保育理解につなげる。
		4 園の運営 各職員が得意とする分野でそれぞれの力を発揮し、相互に協力することによって組織力の向上を図る。	1) 組織の活性化	・職員一人ひとりが得意とする分野において力を発揮し、それがお互いにより良い効果として表れ、組織力向上となるような取り組みを心掛ける。 ・他園の視察・交流等を行い、新たな気づきを得て、それらを日々の保育で実践しようとする意識を高める。

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子	令和8年度の事業計画		
た ち ば な 幼 稚 園	「今日から明日へつながる保育」を 実践し、「明るい子」「がんばる子」「思いやりのある子」「心豊かな子」を本園の目指す子どもの姿とし、0歳児から5歳児までの発達の連続性を踏まえた意図的・計画的な教育・保育を提供する。	1 教育 研究 活動 総合学園の認定こども園として幼稚園から大学までの連携を強みとし、良質な教育・保育活動を推進する。	1) 子どもの健康・安全の確保	・年齢に応じた心身の健康と発達を導き、安心と挑戦を大切にする生活環境を整備する。	
			2) 充実した保育・教育活動の実施	・「今日から明日へつながる保育」を掲げ、生活や遊びの連続性を大切にする。 ・「人とのかかわり」を重点に置き、主体的で協同的な育ちに着目した指導計画を進める。	
			3) 園行事の柔軟な実施	・園児が主体的に取り組めるよう柔軟に実施する。 ・保護者に対し各行事の趣旨をより明確にし、園の教育方針の理解と連携を図る。	
			4) 常葉大学・常葉大学短期大学部との連携	・附属園として、大学と短期大学部との教育研究を推進する。 ・実習協力を基盤に教育実践の交流や保育の質の向上、人材育成を協働する。	
			5) 橋小学校との連携	・幼小の円滑な接続を推進するための、交流活動を継続的に協働する。	
			6) 職員及び職員組織の力量の向上	・職員一人ひとりの自己目標を明確にし、学びを深め、報告し合う。 ・組織で保育と教育の質の向上を図る。	
		2 地域 貢献 活動	地域の方々との連携や協働を推進し、子育て支援や地域社会の活性化に貢献する。	1) 地域との交流	・令和8年度に「未就園児対象の会」を整理して低年齢層も参加できるように対象年齢に応じた内容を検討する。 ・参加する未就園児や保護者が安心して過ごせ、満足度を高められるような企画・運営を行う。 ・地域の小規模園やこども園との交流を通じて連携を図る。 ・地域清掃や地域イベントに参加し、地域との連帯感を育む。
		3 募集 活動	地域に開かれた園づくりを推進し、これまでの募集活動を点検・検証して効果的な広報を実施する。園の教育特色と信頼性を軸に、デジタル発信と対面の接点を併用した広報体制を構築し、多様な保護者ニーズに応える募集活動を展開する。	1) 園児募集	・令和8年度に見直し予定の「未就園児対象の会」を通じて、本園に親しみを感じていただくとともに、保護者とのコミュニケーションを通じて本園への興味や関心を寄せていただけるようにする。 ・各認定に応じた説明会と見学会を実施し、教育理念の理解を促す。 ・日常の活動の様子や行事をホームページやSNSで発信する。
		4 園 の 運 営	社会の変化に柔軟に対応しながら、教育・保育の質を確保し、持続可能な運営基盤の構築を図るため、職員の資質向上、業務の効率化を進めるとともに、地域や保護者との連携を強化する。	1) 組織の活性化	・本園の目指す「子どもの姿」の実現に向け、継続的な教育・保育を実施する。 ・「人とのかかわり」に着目した園内研修を行い、職員の共通理解と学びを深める。教育・保育内容の充実と改善を通し職員の資質向上を目指す。

5. 附随事業

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子	令和8年度の事業計画	
リハビリテーション病院	<p>本法人の附随事業である常葉大学リハビリテーション病院では、疾病の治療や二次的合併症の予防に取り組み、地域住民の健康の回復と維持を図ることによって、健康寿命の延伸に貢献する。あわせて、医療従事者を志す学生に対し、実習受け入れ施設としての役割を果たし、教育と臨床の双方から社会に寄与する。</p>	<p>1 教育研究活動</p> <p>養成校の学生に加え、中学生・高校生にも病院見学や職場体験の機会を設け、教育活動を推進する。また、医療従事者の研究活動として学会発表を行い、その成果を臨床教育の質向上に役立てる。</p>	1) 医療従事者等養成校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者養成校との共同研究を積極的に行い、その成果を学会で発表する。 ・研究成果を臨床現場に還元し、臨床教育の質を一層向上させる。 ・実習環境の向上のため養成校と定期的に協議し、学生が専門知識を確実に身に付けるための連携体制を構築する。
		<p>2 地域貢献活動</p> <p>地域住民とのつながりを大切にし、身近にできる健康支援や交流を通じて地域に貢献する。段階的に活動の幅を広げ、将来的には予防啓発や健康づくりにも発展させ、地域に信頼される医療機関を目指す。</p>	1) 地域の医療への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・患者一人ひとりのその人らしい生活の再構築に向けてリハビリテーションを行う。 ・入院中に自宅などの生活環境を確認し、安心かつ安全な生活ができるように援助する。 ・これらの活動を通じて、住み慣れた地域で健やかに暮らし続けるための支援体制を構築していく。
		<p>3 広報活動</p> <p>回復期リハビリテーション病棟の専門性を生かし、施設基準の見直しやホームページの更新を通じて自院の役割を発信し、適切な患者が安心して利用できる体制を整える。中長期的には、紹介元医療機関や地域との連携を強化し、安定的な患者受け入れ基盤を構築する。</p>	1) 広報活動	<p>令和8年度診療報酬改定に準じて、回復期リハビリテーション病棟の施設基準の見直しを検討し、専門性を生かした体制を整える。また、自院の役割を発信するためにホームページの更新作業を実施していく。患者が安心して利用できる環境を構築していく。</p>
		<p>4 財務・運営</p> <p>診療報酬・介護報酬の改定に応じた適正な収入管理と、法定価格内での効率的な医療提供を行う。施設移転から10年以上が経過していることを踏まえ、修繕・更新計画を中長期的に実施し、安定した医療サービスの提供と教育・臨床両面での社会貢献を進める。</p>	<p>1) 安定した医療収入の確保</p> <p>2) 安全で適正な医療提供体制の構築</p> <p>3) 回復期リハビリテーション病棟としての施設・設備の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬および介護報酬の改定に応じた適正な収入管理を行い、安定した医療収益を確保する。 ・法定価格内での適切な医療提供を追求することによって、安定した運営基盤を構築していく。 ・適切な診療報酬の算定に努め、社会貢献と安定した運営の両立を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・施設移転から10年以上が経過していることを踏まえ、中長期的な修繕・更新計画に基づき施設や設備を適切に維持管理する。 ・基盤となる環境を整備することによって、患者に安全かつ適正な医療を提供できる体制を継続して構築していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション環境の修繕や更新を計画的に実施していく。 ・適切な機器導入や病棟設備の整備を進めることによって、病棟生活での環境を整え、質の高いリハビリテーション医療を継続して提供していく。 ・これらを通じて、地域に信頼される専門病棟の機能を維持する。